

平成19年度

# 病虫害発生予察特殊報(第7号)

平成20年2月28日  
神奈川県農業技術センター所長

病虫害名：スイカ黒点根腐病  
病原菌：*Monosporascus cannonballus*

作物名：スイカ（トウガン台木）

## 1 発生経過

- (1)平成19年6月に行われた三浦半島地区ウリ科野菜しおれ症巡回調査時に、三浦市内の圃場で果実肥大期に葉やつるが激しくしおれ、枯死状態になっている株を発見した。発生面積は約2aで、発病株はほとんどの葉が枯れ上がり、肥大した果実のみが残っている状態であった。品種は姫甘泉、タヒチ、天竜2号であり、いずれも台木は四国在来トウガンであった。
- (2)被害株は、細根が褐変あるいは腐敗して脱落しており、褐変部分の表面に多数の小黒点が認められた。農業技術センター農業環境研究部で顕微鏡観察をしたところ、黒点根腐病菌の子のう胞子が確認されたため、本病と同定した。
- (3)本県では平成3年にメロンとスイカ（ユウガオ台）で黒点根腐病が初確認されているが、トウガン台スイカでは初めての確認である。トウガン台スイカでは平成9年に長野県で発生が確認されている。

## 2 病徴および病原の性質

- (1)ユウガオ台のスイカでは、収穫間際に急激にしおれ、やがて下葉から黄化、葉の枯死が起こる。発病してからの進展は比較的速やかである。被害株の根は褐変し、細根は脱落する。萎凋の初期は主根が飴色に変色し、やがて主根が枯死するようになると根の表面に0.3mmほどの小黒点（子のう殻）を形成する。トウガン台でも同様の経過を経ると考えられる。
- (2)病原菌は培地上では10～37℃で生育し、最適温度は30℃前後と高めである。罹病株の根部に子のう殻を作り、これが土壌中に長く残り伝染源となる。子のう胞子が発芽して菌糸を伸ばし、根から作物に侵入する。種子伝染はしない。
- (3)接種試験ではキュウリ、メロン、ユウガオ、スイカ、トウガン、シロウリ等広い範囲のウリ科作物に病原性が確認されている。

## 3 防除対策

- (1)発生圃場では連作を避け、ウリ科植物以外の作物を栽培する（子のう胞子は土壌中で5年以上生存するという報告がある）。
- (2)病原菌密度抑制、蔓延防止を図るため、被害圃場の残根処理は丁寧に行う。
- (3)適切な摘果を行い、樹勢の衰えを防ぐ。

(4) スイカ黒点根腐病に適用のある薬剤

薬 剤 名	使用量	使用時期	使用回数
ソイリーン	30L/10a(1穴当たり3ml)	作付けの10~15日前	1回



発病株の根部（細根が脱落している）



根部に形成された小黑点

神奈川県農業技術センター  
病虫害防除部

〒259-1204 平塚市上吉沢1617

TEL 0463-58-0333

FAX 0463-59-7411

テレホンサービス0463-58-6612

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp>